

事例⑦コロナ禍における就労支援・学生支援と地域連携(社会福祉法人 みささぎ会)

社会福祉法人みささぎ会(以下、みささぎ会)は、大阪府内で特別養護老人ホーム 3 か所を中心に高齢者介護事業を行っている。また地域公益事業として総合生活相談を行うためのソーシャルリレーション推進室を設置。コミュニティソーシャルワーカーを配置し、ワンストップの総合生活相談事業、無料低額宿泊事業、大阪大学と連携した認知症予防研究事業、地域住民対象のデリバリー介護予防教室などを行っている。

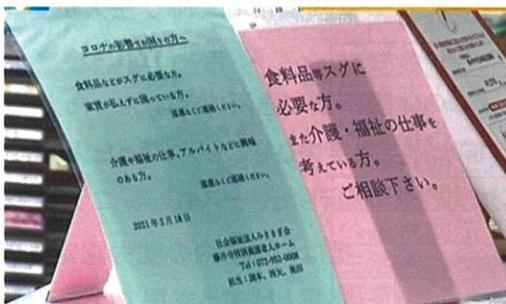
みささぎ会では、コロナ禍での地域公益活動として、雇用の確保、無料低額宿泊所の活用促進、地域のフレイル予防と訪問のためのツールの開発の 3 つの事業を実施した。このうち雇用の確保、無料低額宿泊所の活用促進に関し、概説する。

雇用の確保

2020(令和 2)年 4 月に 1 回めの緊急事態宣言が発令されたことにより、みささぎ会ではパートタイマー(とくに女性や学生)の雇い止めが喫緊の課題になると想定し、5 月から救済雇用を幅広く周知することとした。

学生向けにはインターネット媒体を中心にスポット的なアルバイト求人(業務内容は消毒作業や食事の配膳下膳、レクリエーションの補助など)を掲載。結果として高校生 2 名、大学生 4 名の採用に結び付いた。6 名中 4 名が 1 年以上継続してアルバイトとして働いてくれた。先に入った友達の紹介で相談に来た学生もいる。

社会人向けには藤井寺市社協がコロナ特例貸付の窓口になったことから、市社協と連携し、みささぎ会が救済雇用と総合生活相談を行う内容のチラシを設置。貸付相談に来所された人に案内をすることで、仕事の相談は 6 件あり、そのうち 3 件が採用となった。仕事だけではなく暮らし全般の相談も多く、生活保護費や特例貸付が入金され



るまでの期間、みささぎ会が食事やライフライン費用などのつなぎ支援を行った。市社協とは 2015(平成 27)年に発足した地域貢献委員会(社会福祉施設連絡会)の活動を通じ、普段から顔の見える関係を構築してきたことから、スムーズに連携を行うことができた。藤井寺市社協では、2021(令和 3)年度よりフードサポートイベントを開催しており、そこでも案内を置いてもらっている。

(藤井寺市社協のコロナ特例貸付の窓口に向けたチラシ、MBS ニュースより)

無料低額宿泊所の活用

また、みささぎ会では、過去の総合生活相談の経験から住まいの確保の重要性を痛感し、2015(平成 27)年より無料低額宿泊事業を開始。緊急性の高い生活困難者支援を実践してきた。コロナ禍では雇用だけでなく住居についても支援が必要なケースがあると考えられたため、大阪府地域福祉推進室社会援護課を訪問し、援護課より無料低額宿泊所が利用可能であることを各市町村へ通知をしてもらった。このことがきっかけでケースワーカーより問い合わせが入り、迅速な利用につながったケースがあった。

ある利用者は、建設会社で就労し、社宅で生活していたが、コロナの影響で大口の仕事がなくなり、2020 年 12 月に会社を解雇、社宅も即退去となってしまった。公園で野宿をしていたところを、大阪府社協野宿支援グループ支援員が発見、生活保護申請をするるとともに保護が決定するまでの期間、無料低額宿泊所を活用することとなった。落ち着いた状況で CSW がていねいなアセスメントを行い、体調を安定させた後に退所することができた事例である。